



TITLE:

雑報

AUTHOR(S):

CITATION:

雑報. 地球 1934, 22(4): 308-316

ISSUE DATE:

1934-10-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/184341>

RIGHT:

菊倍版アート紙に便利堂が印刷したものであるが、これは山中でやつた、古銅器、古玉、造佛、石佛、漢唐、明陶器、宋元明磁、清朝官窯、陶器、清代玉器、一千七百四十一點、朝鮮の金石、陶磁器、古塔燈籠一六二點といふ空前の展覧の中から精選品をよりすぐつて成した圖録である。しかし一般の美術商の目録とちがつて、特に東洋美術の粹をあつめられたこの圖録は之をみる丈けでも考古・美術・歴史・地理の學徒に何とも名狀しがたい感激を與へることを信じて當夏期休暇中の出版物として特に江湖に推薦する。

(藤田)

○續京郊民家譜

大阪毎日新聞京都支局編 賣價十二圓

さきに昭和六年三月京郊民家譜を天下に紹介した毎日京都支局の岩井氏は更らに局員武井清志君や森田蘆舟君を督促して續京郊民家の寫眞解説に盡力せしめた。丁度この寫眞は昭和六年四月からずつと毎日の京都版に出たので好事家の注目を惹いたものであつたのを、今度も亦便利堂に命じコロタイプ版にした。かくて京都の郊外から丹波三郷、近江栗太郡までに亘つて約二百の民家の圖録が出来た。一々の民家については簡単な解説があつて、其寫眞の指示する要點を明にしてある。何といつても日本文化の中心、王城に近い農村が三千年間、郷土意識を涵養したこの自然の靈境からのヒントを得て、手作りの自分等の住居そのものにも、自から意識せざる美術を發揚したのが即ちこの美はしい二百枚の寫眞にまざまざしく映じてゐるではないか。民家の研究年を追ふて盛ん

ともなつてきたが、一つ一つの民家をみてゐる目には左程にも感興をひかなかつた、屋根や木組や建築のプロポーシヨンが、かうした一卷にまとまつて、自分の生れた土地にかくまでもしたはしい美的表現があつたのかと教へられる我等は、今日までいかにも云ひしれぬ失念をしてゐたことに注意せざるを得ないであらう。筆者はかうした民家の集をみて、まだまだ日本の人は自分等の手近い所を見つめねばならない事を絶叫したい、さうしてかゝる書籍によつて建築に携はる人々の藝術心が日本風に淳化されなくてはならないと考へる。

併せて京都の附近こそ民家研究の黄金郷である。京都を離れて遠くなる程、かうした美は減ずるといふことをのべて人文地理學者の參考にもなるこの民家譜をおすゝめする(藤田)

雜報

○地形的斷層決定法に就いて

本誌九月號一五七頁に記された筆者に關する部分は多少誤解があると思はれる。筆者が地理學年報第二卷一三八—一三九頁に書いたのは、數人の地形學者が皆認めた斷層のみを用ひて「斷層圖を作ればよい」といふ意味ではなく、このやうな方法は「間に合せの方法」であり、「地形から假定線を求める」方法であり、豫察的なものに過ぎないが、それでもかくすることによつて、侵蝕量を斷層崖と考へたりするやうなひどい間違ひが、いくらか

でも減るだらうといふ意味である。斷層の最後の決定には必ず地質調査を作ふべきことは明白であつて、筆者が先きに本書第二十卷第三號に書いたものや、地理學年報 第二卷 一一一—一一五頁に記したことを一讀すれば、筆者の意のある處は明瞭であると思ふ。(今村)

○最近在滿本邦人口調

在滿洲國日本領事館所轄別本邦人口につき、昭和六年末及昭和九年六月末現在として、新京日本大使館より發表せるものは次の如し。

領事館所轄別	昭和六年十二月末現在		昭和九年六月末現在	
	内地人	朝鮮人	内地人	朝鮮人
安東	二、五七〇	五〇、五四五	一五、八二六	六七、五五六
營口	一〇、五四	一〇、二五	四、五二	七、三五三
錦州	—	—	二、九九九	五三七
奉天	六四、六六五	九八、〇四七	九五、〇五四	五九、七九四
鄭屯	二、六三	一、四八六	三、一六六	四、五九
間島	二、四三六	四〇、九四二	八、四三三	三九、一二二
吉林	九四八	一八、三三八	六、九五五	二二、四八五
新賓	一七、四六四	五、八三九	四、一九〇	一四、八二八
哈爾濱	四、一二五	三三、〇二	二、六七三	五九、四二四
齊齊哈爾	三、六八	九、三三七	八、四三三	六、四九〇
海拉爾	—	—	一、〇九四	一八六
滿洲里	一七四	一六五	三、六二	七五
赤峰	—	—	四、二九二	五、六五
合計	二、三五五〇	六九、三三五	二二、一〇五	六三、七七一

備考、右の表以外に居出なきもの、住所不定、其他調査不可能の者、多數ある見込なりといふ。(上治)

○北安鎮事情

北安鎮は北緯四八度一二分、東經一二六度二一分、滿洲國黑龍江省の一都會である。民國二年(二二年前)頃より小部落を成して居たが、滿洲事變後の兵陣の災に遇ひ、最近まで一寒村たるに過ぎなかつた。然るに齊北線により二二三〇・四軒にて齊々哈爾濱に、濱北線三三三・三軒にてハルビンに至るべく、黑北線三〇三軒にて近き將來は黑龍江岸の大黒河に至るべく、現今は北安鎮の北方約一〇〇軒の第二站までは貨車運搬をなし得るに至つて居る。かくの如く、北安鎮は三鐵道線集中の要驛たるのみならず、現今はハルビン大黒河間の飛行機中途着陸地、日本領事館分館・滿鐵建設事務所・守備隊・衛戍病院等あり。附近は肥沃なる北滿平野なるを以て近來北滿經營の一策源地として著しく發展をなしつゝある。人口滿人約七、〇〇〇人、本邦人二、〇〇〇人に近く、最近一ヶ年間に人口一萬に達せんとする小都會と化した。本邦人は目下は黑北線工事關係者、軍人の外は旅館料亭經營人並に事業家の人々である。

北安鎮が將來大都市に發達するか、單に通過驛と化するかは地理的に興味ある問題である。(悠汀)

○洮南の近況

平齊鐵道に沿ひ、四平街より三二〇・九軒、齊々哈爾濱より二五〇・五軒に位す。光緒二八年(今より三

三年前）遊牧地を開放し、同三年洮南府を設置し、民國二年（二二年前）縣に改む。開放當時は四十戸の小部落であつたが漢人の移住多く、日露戰當時毛皮の需要増加と共に畜産市場として發展し、鐵道開通により劃期的に發達し、人口五萬八千の都會となる。内地人は本年四月末一千人、鮮人五百人



市街の中央部より北望す。北方に氾濫せる洮兒河を見る
市の家は泥にて作り平坦なる屋根の平屋多し。

にして増加の傾向にあり、滿洲國縣公署・陸軍第二旅司令部・警務局・市公署・地方法院・稅捐局・日本國騎兵旅團司令部・滿鐵事務所・鄭家屯領事館警察洮南支署・野戰郵便局等がある。洮南驛發着貨物は次の如し。單位越、大同二年度調。

到着貨物 面粉三、四六〇 鹽七八〇 煤三、一一八 木材二、二四二 安平八二七 紅糧六九〇 其他八一、五五九 官用品二、〇三五 國線用品九六、〇四一 他線用品一六〇 以上合計一九〇、九一二越。

發送貨物 大豆一四、三一〇 小米四、三七〇 其他穀物一八、七一七 生畜二、四一八 其他八、〇三七 官用品一七、四〇三 國線用品三〇、五七七 他線用品一、二〇五 以上合計九七、〇三七越。（悠）

○拉賓線開通

ハルビン傳家甸區の濱江驛より京圖線拉法驛に至る延長二六八軒の鐵道で康德元年九月一日より營業を開始した。一昨年五月起工し工事は滿鐵にて請負、本年夏頃は既に客車も運轉して居た。線路はハルビンより北鐵を横斷し、大豆・小麥の耕地及疎林の低地を拉林驛に至り、拉林河上流五常驛附近より漸次に丘阜地の間を過ぎ、小城子・馬鞍山の諸驛より原始林地帶を過ぐるもので、溪谷には自然の倒木、流木多く、現今は鐵道枕木其他の用材に伐採されつゝある。北方太平山を横斷する處には二―三の小隧道がある。その以南は拉法の平野で拉法には日本守備隊が駐屯する。本

線路は北鮮經由ハルビン・北滿地方に至る最短線路である。

(悠生)

林 原始の線沿線演拉



拉演線の南半は森林地帯で、現今盛んに伐採されつゝある。馬鞍山驛の北方の景観。

○世界主要棉花産出國並種類

一、米棉 A、シーアイランド (ジョージア、カムバーラン

ド産) 上製で伸縮性にとむ、色は白い。

B、ジョージア短小種、淡黄色を帯ぶ、ニューオルリーンス、ルイジアナ、カロリナ、及アラバマ等數種がある。

二、南米棉 A、ブラジル棉、膠着性の纖維で光澤あり長さ通常三十一—三十八耗、ベルナンブコ、パイア、サントス等數種あり。

B、ギアナ棉、右に同じ、長さ二十七—三十四耗カエナ種デメララ種等あり、これらはすべて産地名である。

C、コロンビヤ及ベルー棉、硬性白色或は淡灰色でヴァリナス、バルセロナ、カラカス、カルタヘナ、ベルー等の數種にわかれる。

三、西印度棉、A ハイチ棉、淡黄色光澤あり二十三—二十五耗。

B、グワタループ棉、白色強靱。

C、マルチニク棉 硬性帶黄色棉で二十八—三十五耗。

D、キューバ棉 同上。

E、ボルト・リコ棉 纖維上質纖細で柔軟性に富み白銀色である、二十一—二十五耗。

四、近東棉 A、キルカゲブ棉 白色美麗十六—二十耗。

B、スボイアク棉、同前柔軟で光澤あり十八—二十三耗。

C、サロニカ棉、白色不揃弾力に富む十六—二十耗。

D、イタリー棉、白色である、カステラマレ、ピアンカヴェイラ、テラノヴァ等の種類がある。

五、印度棉 A、バルボン種、白色光澤あり二十—二十七糎。

B、ベンガラ種、纖維長く淡黄色を帶ぶ、十六—二十五糎。

C、マドラス種、同前十六—二十四糎。

D、ティニヴエリ種、白色光澤に富む十六—二十四糎。

E、スラテ種、白色膠着性である、十八—二十一糎。

F、ブローチ種及ハスバス種、白色美麗、二十一—二十一糎。

六、支那棉 A、支那本土棉乳白色を呈し、彈力少い二十一—二十五糎。

B、日本種彈力に富む、十一—十九糎。

七、埃及棉 白色纖細上質、彈力に富み纖維直正。

○支那茶の生産狀態

支那茶の生産地は十八省中十七

省の廣に亘り、就中揚子江及珠江流域がよい、黃河流域の山西・陝西・山東の諸省や遼寧等にも生産はあるけれども量は少い。

支那茶の産額について數種の調査資料はあるが其區域が廣いから、確なことはわからぬ。昭和八年支那紙申報の年鑑によると左の如し。

	作付面積	産額	一畝當り
河南	二一、一四八畝	五四四擔	二、六斤
山西	一〇一	一二	一一、九
江蘇	一四四、四五〇	七、七八九	五、四
安徽	七五〇、一一九	四九九、二八七	六五、九
江西	一、二〇八、〇〇二	一九七、三六九	一六、三

福建 一二二、四七五 九三、五一〇 七六、四
 浙江 八五五、九七七 三二二、七七〇 三六、四
 湖北 五二一、七七五 四一七、六九八 八〇、〇
 湖南 六九四、五八七 二三九、九一七 三四、五
 陝西 二、三四八 九〇六 三八、六
 廣東 四四、八四三 一六三、六二一 三六四、八
 廣西 七七、八八八 三〇二、一〇五 三八七、八
 貴州 一、六四五 二七八、五四九 一六九、二六
 合計 四、四七五、三五八 四九九、四四五 一〇四、一

この一畝は我國の二百坪位である。各省の數字不確實であるが河南や江蘇は一畝平均二斤六、乃至五斤四といひ、廣東廣西は三百六十五斤から三百八十七斤の多量であるがこれは南の方が一年に六番茶までもつむ結果らしいけれども信用の出る數字ではないらしい。支那では需用の如何によつて普通一番茶二番茶はつむが、市價良ければ四番まではつむ。しかし近年は不況で二番以上に出不いから、生産量の算出は自ら困難となる。

支那輸出茶の主要生産地、綠茶では安徽省の婺源・休寧・黟縣・績溪等が中心で珍眉茶の名がある。浙江省の遂安・淳安の地方も今の安徽に地つづきであるから同じ珍眉茶を出す、從來歐露へ向けて輸出されたが最近其最大部分はアフリカへ出されてゐる。

綠茶に平水茶といふのがあるが浙江省の紹興・嵊縣・上虞・

新昌・清溪の五縣が中心地で大部分が紹興の平水鎮に集散されるからこの名がある。この方は主として米國向の輸出である。同じ系統で浙江湖州産の平水茶があるが上海に積出されて、同地の問屋が再製してアフリカへ向けて出してゐる。

支那の紅茶の主要なのは所謂祁門紅茶で、産地は安徽省の祁門・至徳・及古來有名な茶産地たる江西の浮梁（僧榮西はこの浮梁から筑紫の春振山へ茶をうつした）の三縣である。つぎは江西の修水・銅鼓及武寧から紅茶を出すこれを寧州紅茶といふ、浙江省の温州に屬する永嘉平陽青田順泰からは温州紅茶を出し、湖南・湖北から兩湖茶を出し、福建のは福州に集散するから福州茶といふ。

支那紅茶の外國輸出旺盛であつた當時は、江西と兩湖だけでも百餘萬擔の多きに上りしが近年段々と不振となり、今日是最上等の祁門茶ですら賣行滯滞し、相場は下落した。又内地向も紅茶・綠茶の別があるが内地向は福建・安徽・浙江の産が主要である。陝西から甘肅青海新疆西藏まで消費される茶は、兩湖の産の外、四川・雲南邊の下等品である。要するに綠茶には、徽州茶・平水茶・湖州茶があり、外に各地より上海に搬出の未精製が多く、（之を土莊茶といふ）紅茶には、祁紅・宰紅・湖紅及び福州茶の四大別があるが祁門茶が高級で綠茶では龍井（ロンジン）といつて浙江省の西湖附近の産が最も上等で一般中流家庭で賞讃されてゐる。従つて支那は紅茶だと早合點してはいけない。ことに支那の紅茶は臺灣の烏龍茶よりも質

が劣つてきたのである。

○青島牛

日本への輸入肉は大部分之を民國と滿洲とに仰ぎ、朝鮮を除きては大連・天津・青島の三港から輸出される。三港のうち青島牛が大多數であるが、其理由は滿洲牛よりも天津系統の牛よりも青島に集る牛が優秀なためである。青島及濟南を中心とする家畜の買出・屠殺・加工等畜産貿易に従事したものは最初、英・米・獨・露の商人であつて大正八年迄日本商人の力は微々たるものであつたが、右の外商が取引を放棄してから今日では日本人の獨占事業となり一箇年六萬頭を越ゆる盛況になつた。

大正八年五月、青島守備軍々令で重要物産同業組合規則が發布され、生牛・生肉・落花生實・落花生油・絹紬・小麥・豆油・鶏卵の八點を重要物産としその買入販賣・輸出業者を強制組合にいられた、爾來與地より生牛を買入、牽出し、日本へ生牛のまゝ、或は屠肉として輸出するもの十八名が組合設立認可を得たが十一年末軍撤退後も輸出組合のみは總領事監督の下に現存してゐる。

青島に集る牛は一部は生牛とし大部分は屠殺して日本に輸出される。日本向牛の屠殺數は全體の九六—九七%に達する昭和六年約六萬頭。

而してこれらの牛は如何なる經路でどこからくるかといふと、鐵道によるもの七割、陸行三割の比で濟南から出るものが最多である。昔は日本人で與地に買出しに出たが現在全く

跡をたち鐵路又は陸路で青島の牛棧につくと、日本人はこの牛棧で賣買を始める。牛棧で豫備検査をなし、合格したものを青島屠場で秤衡を終つて取引するもの、検査所で合格したときに支拂ふもの、牛疫免疫血清注射までやつて後正式に取引するものである。生肉の方は屠殺後検査に合格した枝肉を買付けるのが習慣である。牛の外に羊や豚の屠殺もある。昭和六年中の屠畜は合計牛五萬七千六二五、羊二萬頭、豚六萬七千頭に達した。

これらの屠肉中牛肉と豚肉及舌は、東京・名古屋・大阪・神戸・京都・下關・門司・大牟田・横濱・大連・宇品・富山・金澤・吳・福岡等の各地へ證明書によつて輸出された。この中大阪は肉九百萬斤、豚・舌二萬二千斤を以て第一位、神戸七百萬斤、東京百七十萬斤、名古屋百三十萬斤、門司百萬斤といふ順序で、京都は五十萬斤位しか輸入しない。何といつても地理的に近い阪神が消費の中心であることは疑を要しない所である。

○北滿洲の貿易事情

昭和元年から二年にかけて四億萬圓からの輸出入のあつた北滿も昭和四年以降、世界不況のために或は銀價下落、滿洲事變等の後をうけて昭和七年には二億七千萬圓にも減じた。そのうちで日本の商品の輸入は四千萬圓乃至六千五百萬圓で全日本の輸出に對して僅々五%にすぎない。しかし日本商品が世界の各地で八方塞になつた時に北滿は將來重大市場となるべきである。云ふ迄もなく北滿

の中心市場はハルビンであるから其貿易經路は北滿・南滿東支鐵道の外に賓北・齊北・拉賓・洮昂の諸線があり、水路に松花・黑龍・嫩江・ウスリーがある。

日露戰爭以前にはさしたる經濟發展はなく、東清鐵道の建設諸工事の材料と、人口の急激な増加による必需品の輸入のみであつたが、第二期の歐洲大戰時代はハルピンは對露貿易の策源地・中繼貿易地として俄然發展を來し、ロシアの本國の不足品を補ふために樞要の區となつた。ついで歐洲大戰後は對露貿易は一變して不振を極めたが、北滿の生産は大豆を中心として異常の發達を來し、人口の自然増加に伴つて輸入も増した。やがて昭和六年九月十八日柳條溝の滿鐵爆發から生じた滿洲事變は昭和九年に帝制確立をしめしたが、世界の不況と特に歐洲の不況とか、北鐵讓渡問題とか、日蘇開戦の懸念で、ロシア人の引上があり、之に伴ふ露人の購買力減退で今は北滿貿易も一頓挫してゐる。しかし日本人はこゝで露人にかはつて進出をはかるべきであるが、日本商人と滿洲商人とを比べると、滿洲商人は聯號制度で商人の間に連鎖組織があるので、仕入がやすい。又一般に生活程度が低いので零細の利をすてない。一般の滿洲人の生活が低くて購買力が弱い加ふるに日滿間に貨幣本位がちがつて相場がかはる。これに不慣の邦商は多大の障害をうけるが、生れるとかうした日々の變動になれてゐる支那人は平氣で却つて商賣外の利益をうるといふのであるから日本人は餘程覺悟をせぬと、滿洲人に

勝目はない。

北滿の大豆は昭和四年最盛で二百一萬噸に達した。主として北歐でオリブや椰子・落花生の油の代りとなつて、マルガリンの原料になつた外に其粕は家畜の飼料として北歐各地で需要があり、現在これに代るべき適當の飼料がない點にかつてゐたが、獨逸が輸入禁止にあつて、非常にこまつた。目下獨逸は解禁したので見込がついてきた、我國では一年に豆粕餅五千萬枚を消費するので、日本が豆粕の最大需要地である。そこで豆油は大戰當時米國に輸出され、現在では南支方面に向けられる。

林産は資源に富むが材質も建築材料長尺物として優秀であるけれども、北滿鐵道の運賃が高いので輸出が十分でない。

つぎに製粉業があるが事變後日本人がこれに加はり興國製粉や滿洲製粉の操業が始まつた。これは將來の見込が多い。猶又ハルビンには既に有力な豆粕や雜穀を取扱ふ日本有力商店が九つもあり木材取扱店が六つも出來た。轉じて輸入方面をみると大約二億圓で南滿よりもやゝ劣勢である。

第一に綿絲布であつて五百萬圓乃至千五百萬圓の多に達し日本品が斷然光る。つぎに日本製の雙人絹平地・雙人朱子・雙人鹽瀬並に紋織があり、これは露人にも需要されて、絹、人絹及交織物で二千萬圓にも達する見込である。毛織物は大約五百萬圓から一千萬圓に達し、英國優勢で、ポーランド・チエツコ・日本・ドイツといふ順であつたが、滿洲獨立以來日

本が英國品の堅城を脅かすに至つた。

北滿で消費の砂糖で香港製蔗糖は九分九厘まで日本。ザラメ糖は瓜哇であつたが昭和七年阿什河製糖工場がザラメをつくり始めたので瓜哇は杜絶した。角糖は香港品で、氷糖は日本品である。

北滿各地に有翼炭坑があるが、設備が不備であるから撫順などから輸入される。産地はジャライノール・穆陵・鶴立崗の三所で其他に有力なのがない。

つぎに北滿消費の紙類一切は日本品である。林檎も朝鮮鎮南浦平壤産が入り紀州・靜岡・伊豫の蜜柑、和泉の玉葱の外に臺灣のバナナが輸入される。

主要ソヴィエットの輸入品は目下年額百七十萬圓に達しないがロシア更紗と麻織物・麻チーフル掛・麻手布はいづれも優良で日本品は競争が出來ない。菓子類も明治製菓・グリコ・等に對して蘇製品のものパツシェ（飴菓子）は品質が良く罐詰は日本産よりもよい。鮭の鹽漬・燻製及魚卵の鹽漬この三つはとも日本品の及ぶ所でない良點をもつ、其外に石油揮發油が廉く毛織物や硝子は將來よいのが出てくるかもしれない。陶磁器は品質良好でないけれども、特にダンピングをやから需要がある。

しかしロシアの對外貿易は年々の大入超で支拂が出來ないでゐる。其自力更生は猶將來に屬するであらう。

○四川の蔗糖

リヒトホーフエンの所謂赤色盆地である

四川は支那でも富裕な原料生産地で、鹽・生絲・紙・桐油・藥材・生漆・夏布の外に砂糖が諸外に輸出される。其産地は富順・瀘縣・内江・資中・資陽・隆昌・つまり沱江の貫通する中心盆地である。いづれも沱江の水運で重慶に集中され白馬廟と趙化鎮は其運搬のために帆船雲集し、砂糖商と工場とがその附近に散在し農村經濟上重大な關係をもつ、そこで出来た白糖は省内のみでなく西康省・貴州・雲南に販賣する外更に湖北・湖南にも販賣されるのであるが、太古汽船や日本の汽船が外國糖・日本糖を漢口其他へ輸入してから大打撃を與へたが、日貨排斥の結果一時四川糖の勢力が復活し昭和八年には一年間の輸出高が二千四百五十萬斤にも達した。しかし近頃日清汽船の長江復航のためにこの好景氣もつかず、近來四川糖の市價百斤十九元から、十四元に低下したといふ。しかも昨年は沱江流域は大旱魃で甘蔗の收穫半減したので輸出も出来ない現狀にあるといふことである。

○北米ヒューストン港 一八九九年末米國の貿易港と

なつてから運河の浚渫港灣設備の充實、鐵道の聯絡、油送パイプの延長小麦起重機等の備付で、棉花・石油・小麦等の輸出砂糖・珈琲の輸入旺盛となつて近年内外船舶の寄港著しく、南部ではニューオルリーンスにつぐ第二の商港となつた。一九三三年の輸入は九百九十一萬弗で前年よりも二十萬弗を増加し、袋材料・珈琲・罐詰類・新聞紙・砂糖等が入り、ブラジル及英・佛・獨・キニバ・日本等から仕向けられた。輸出は常に輸入の十倍で一億七千萬弗に達し、棉花・原油・ガソリン・オイル・米を出す。棉花は輸出の七割七分でテキサス・オクラホマの産を吞吐する。主要國は日本が筆頭で、獨・英・佛・伊の順である。原油の七割はカナダ、其他は佛・白である。ガソリンは英・佛兩國へ輸出の半分をとられる。輸出の相手は四十六ヶ國、一九三一年には英國第一であつたが一九三三年に日本が一躍して一位をしめ三千三百萬弗の取引に上つた。